

A 水車を作る人々

入試形式 A | 全8問 | 目安12分 | 25点

全32問・100点・目安60分。A～Dは各25点です。

目的・動作の主体・対比から、筆者の評価を読み取ります。

出典：兼好法師『徒然草』第51段「亀山殿の御池」全段

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

- ① 亀山殿の御池に、大井川の水をまかせられむとて、大井の土民におほせて、水車を作らせられけり。おほくのあしをたまひて、数日にいとなみ出してかけたりけるに、大かためぐらざりければ、とかくなほしけれども、終にまはらでいたづらにたてりけり。
- ② さて宇治の里人を召してこしらへさせられければ、やすらかにゆひてまゐらせたりけるが、おもふやうにめぐりて、水を汲み入ることめでたかりけり。よろづにその道を知れるものは、やんごとなきものなり。

語注と背景

亀山殿＝ここでは離宮の名。まかせられむ＝お引き入れになろう。大井の土民＝大井に住む人々。
あし＝銭。いとなみ出す＝苦労して作り上げる。こしらふ＝作る。ゆふ＝組み立てる。
やんごとなし＝ここでは尊く優れている。その道＝その分野の技術や仕事。

底本：國文大観 日記草子部。表記は教材用に一部整理。

語注・現代語訳・設問・解説は独自作成。

読み取りメモ 人物・出来事・筆者の考えを整理しよう。

A 水車を作る人々

入試形式 A | 全8問 | 目安12分 | 25点 | 設問

本文と語注は問題1ページ。選択は記号を○で囲む。句読点も1字です。
字数は句読点・かぎカッコ・小さい仮名も各一字と数えます。解答に書く①・②なども各一字です。本文に印刷された段落番号や、解答欄の外の番号は数えません。

問1〔2点〕 ②の「おもふ」を現代仮名遣いに直し、ひらがなで書きなさい。

--	--	--

3

問2〔2点〕 ①の「大かためぐらざりければ」の意味として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア

ほとんど一周したので
- イ

だいたい回っていたので
- ウ

まったく回らなかったのだ
- エ

大きく回り続けたのだ

問3〔2点〕 ①の「とかくなほしけれども」で水車を直したのは誰ですか。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

10

問4〔3点〕 水車を作らせた目的として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア

池の水をすべて外へ流すため
- イ

大井川の水を亀山殿の池へ入れるため
- ウ

宇治川の水を大井へ運ぶため
- エ

水車を作る競争を開くため

問5〔3点〕 ①から、修理をしても水車が結局回らなかったことを示す部分を抜き出さない。（6字。かぎカッコは含めない。）

--	--	--	--	--	--

6

見直しメモ 主語と本文の根拠を確かめよう。

A 水車を作る人々

入試形式 A | 全8問 | 目安12分 | 25点 | 設問のつづき

本文と語注は問題1ページ。

問6〔3点〕 本文から確実に分かることとして、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 大井の人々は報酬を受け取らなかった

イ 宇治の人々は何度も修理した後で成功した

ウ 大井の人々の失敗は木材不足のためだった

エ 宇治の人々の作った水車は思いどおりに働いた

問7〔5点〕 大井の人々と宇治の人々の水車作りを、作る過程と結果の二点で比べなさい。
(40字以上65字以内)

																		18
																		36
																		54
											65							

問8〔5点〕 この話を通して、筆者はどのような人を評価していますか。水車の話との関係が分かるように説明しなさい。（40字以上65字以内）

																		18	
																		36	
																		54	
											65								

得点 / 25点

解き直した日 月 日

解き直しメモ 間違えた問いの根拠を書こう。

B 鬼のうわさ

入試形式 B | 全8問 | 目安15分 | 25点

伝聞と直接確かめた事実を区別し、判断の根拠を確かめます。

出典：兼好法師『徒然草』第50段「応長のころ」全段

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

- ① 応長のころ、伊勢の国より女の鬼になりたるをゐてのぼりたりといふことありて、そのころ二十日ばかり、日ごとに、京白川の人、鬼見にとて出でまどふ。「昨日は西園寺に参りたりし。今日は院へまゐるべし。ただ今はそこそこに」などいひあへり。まさしく見たりといふ人もなし。上下ただ鬼の事のみいひやまず。
- ② そのころ東山より、安居院へんへまかり侍りしに、四条よりかみざまの人、みな北をさしてはしる。「一条室町に鬼あり」とののしりあへり。今出川の辺より見やれば、院の御棧敷のあたり、更にとほりうべうもあらず立ちこみたり。「はやく跡なき事にはあらざめり」とて人をやりて見するに、大かたあへるものなし。暮るるまでかく立ちさわぎて、はては鬭諍おこりて、あさましき事どもありけり。
- ③ そのころおしなべて、二日三日人のわづらふこと侍りしをぞ、「かの鬼の虚言は、このしるしを示すなりけり」といふ人も侍りし。

語注と背景

応長＝年号。ゐてのぼる＝連れて都へ来る。院＝ここでは上皇。上下＝身分の高い人も低い人も。安居院（あぐゐ）＝寺の名。かみざま＝北の方。ののしる＝大声で騒ぐ。御棧敷（おんさじき）＝見物用の建物。
跡なき事＝根拠のないこと。あへる＝出会っている。鬭諍（とうじゃう）＝争い。しるし＝前触れ。
③は、当時ある人が語ったうわさと病気の結び付けであり、筆者が因果関係を確かめた事実ではない。

底本：國文大観 日記草子部。表記は教材用に一部整理。

語注・現代語訳・設問・解説は独自作成。

読み取りメモ 人物・出来事・筆者の考えを整理しよう。

B 鬼のうわさ

入試形式 B | 全8問 | 目安15分 | 25点 | 設問

本文と語注は問題4ページ。選択は記号を○で囲む。句読点も1字です。

問1〔2点〕③の「わづらふ」を現代仮名遣いに直し、ひらがなで書きなさい。

--	--	--	--

 4

問2〔2点〕②の「あさましき」の意味として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 驚きあきれるような
ウ つつましく控えめな

イ 朝の光がまぶしい
エ たいへん親しみ深い

問3〔2点〕②の「人をやりて見する」で、人を遣わしたのは誰ですか。

--	--	--	--	--	--	--	--

 8

問4〔3点〕①の「昨日は西園寺に参りたりし」などの言葉の位置付けとして、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 筆者が直接鬼に尋ねた答え
ウ 人々の間で交わされた、確認のないうわさ

イ 鬼を連れて来た人の確かな報告
エ 上皇が発表した公式の命令

問5〔3点〕①から、人々の話に確かな目撃の裏付けがないことを示す一文を、句点を含めて抜き出しなさい。（15字。かぎかっこは含めない。）

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

 15

問6〔3点〕②の出来事の順序として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 争いが起こる→筆者が人を遣る→人々が北へ走る
イ 人々が北へ走る→筆者が人を遣る→争いが起こる
ウ 筆者が鬼を見る→人々が北へ走る→争いが起こる
エ 人々が帰る→筆者が人を遣る→鬼が現れる

B 鬼のうわさ

入試形式 B | 全8問 | 目安15分 | 25点 | 設問のつづき

本文と語注は問題4ページ。

問7〔5点〕 筆者が一時、うわさに根拠がありそうだと思ったのは、何を見たからですか。
(30字以上55字以内)

																		18
																		36
																		54
55																		

問8〔5点〕 「人が大勢集まったのだから、鬼がいたことは確かだ」という読みが適切でない理由を、本文に即して説明しなさい。（40字以上65字以内）

																	18	
																	36	
																	54	
											65							

得点 / 25点

解き直した日 月 日

解き直しメモ 間違えた問いの根拠を書こう。

C 技を身に付けるには

入試形式 C | 全8問 | 目安15分 | 25点

登場人物の考えと筆者の考えを区別し、主張と具体例を結び付けます。

出典：兼好法師『徒然草』第150段「能をつかむとする人」全段

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

- ① 能をつかむとする人、よくせざらむ程は、なまじひに人にしられじ。うちうちよく習ひ得てさし出でたらむこそいと心にくからめと常にいふめれど、かくいふ人一芸もならひ得る事なし。
- ② いまだ堅固かたほなるより、上手の中にまじりて譏り笑はるるにも恥ぢず、つれなくすぎてたしなむ人、天性その骨なけれども、道になづまず妄にせずして、年をおくれば、堪能のたしなまざるよりは終に上手の位にいたり、徳たけ人にゆるされてならびなき名をうることなり。
- ③ 天下のものの上手といへども、はじめは不堪のきこえもあり、無下の瑕疵もありき。されどもその人、道のおきてただしく、これを重くして放埒せざれば、世の博士にて万人の師となること、諸道かはるべからず。

語注と背景

能をつく＝技芸を身に付ける。なまじひに＝中途半端に。心にくし＝奥ゆかしく立派だ。
堅固かたほ＝まったく未熟。つれなく＝平然と。たしなむ＝ここでは熱心に努める。その骨＝その才能。
道になづまず＝その道で行き詰まらず。妄にせず＝いいかげんにせず。堪能＝技にすぐれた人。徳たく＝力量が高まる。
不堪＝下手。瑕疵（かきん）＝欠点。放埒（ほうらつ）＝勝手気まま。博士＝ここではその道の熟達者。

底本：國文大観 日記草子部。表記は教材用に一部整理。

語注・現代語訳・設問・解説は独自作成。

読み取りメモ 人物・出来事・筆者の考えを整理しよう。

C 技を身に付けるには

入試形式 C | 全8問 | 目安15分 | 25点 | 設問

本文と語注は問題7ページ。選択は記号を○で囲む。句読点も1字です。

問1〔2点〕①の「ならひ」を現代仮名遣いに直し、ひらがなで書きなさい。

--	--	--

 3

問2〔2点〕②の「人にゆるされて」の意味として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 人から罰を免除されて

イ 人から休む許可を受けて

ウ 人から習うことを止められて

エ 人から実力を認められて

問3〔2点〕①で、技を身に付けようとする人が言っていることとして、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 上達してから人前に出たい

イ 人の前で失敗しても気にしない

ウ 習わずに有名になりたい

エ 上手な人ほど努力しないほうがよい

問4〔3点〕①の「かくいふ人一芸もならひ得る事なし」に表れる筆者の判断として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 人前に出ることは学習に不要だ

イ 上達するまで人前に出ない考えでは、技は身に付かない

ウ どの技芸も生まれつきの才能だけで決まる

エ 習得した技は誰にも見せるべきでない

問5〔3点〕②から、努力を続ける人と比べられている、才能はあるが熱心に努めない人を表す部分を抜き出しなさい。（9字。かぎっこは含めない。）

--	--	--	--	--	--	--	--	--

 9

見直しメモ 主語と本文の根拠を確かめよう。

C 技を身に付けるには

入試形式 C | 全8問 | 目安15分 | 25点 | 設問のつづき

本文と語注は問題7ページ。

問6〔3点〕 ③で名人にも下手な時代があったと述べる理由として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 名人の評判はすべて作り話だとするため

イ 未熟な人が練習することをやめさせるため

ウ 名人の欠点を笑うことを勧めるため

エ 未熟な段階から学び続ける大切さを裏付けるため

問7〔5点〕 ②では、生まれつきの才能がなくても、どのようにすれば上手になれると述べていますか。（40字以上65字以内）

																	18
																	36
																	54
											65						

問8〔5点〕 ①～③を通した筆者の主張を、才能と学ぶ姿勢との関係に触れてまとめなさい。
(40字以上70字以内)

[illegible]

得点 / 25点

解き直した日 月 日

解き直しメモ 間違えた問いの根拠を書こう。

D 流れる水と人の暮らし

入試形式 D | 全8問 | 目安18分 | 25点

対比と比喩を手がかりに、古文に表れたものの見方を読み取ります。

出典：鴨長明『方丈記』冒頭「行く川のながれ」から「ゆふべを待つことなし」まで

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

- ① 行く川のながれは絶えずして、しかも本の水にあらず。よどみに浮ぶうたかたは、かつ消えかつ結びて久しくとどまることなし。世の中にある人とすみかと、またかくの如し。
- ② 玉しきの都の中にむねをならべいらかをあらそへる、たかきいやしき人のすまひは、代々を経て尽きせぬものなれど、これをまことかと尋ぬれば、昔ありし家はまれなり。或はこぞ破れてことしは造り、あるは大家ほろびて小家となる。住む人もこれにおなじ。所もかはらず、人も多かれど、いにしへ見し人は、二三十人が中に、わづかにひとりふたりなり。あしたに死し、ゆふべに生るるならひ、ただ水の泡にぞ似たりける。
- ③ 知らず、生れ死ぬる人、いつかたより来りて、いつかたへか去る。又知らず、かりのやどり、誰が為に心を悩まし、何によりてか目をよろこばしむる。そのあるじとすみかと、無常をあらそひ去るさま、いはば朝顔の露にことならず。或は露おちて花のこれり。のこるといへども朝日に枯れぬ。或は花はしぼみて、露なほ消えず。消えずといへども、ゆふべを待つことなし。

語注と背景

うたかた＝水面の泡。かつ～かつ～＝一方では～し、一方では～する。玉しきの＝都をほめる表現。
むね＝屋根の最も高い所。いらか＝瓦屋根。たかきいやしき＝身分の高い人も低い人も。大家・小家＝大きな家・小さな家。
こぞ＝去年。ならひ＝世の常。かりのやどり＝一時的な住まい。無常＝すべてが変化して、とどまらないこと。
朝顔＝ここでは朝に咲いてしぼむ花として読む。植物の種類や、露と花の一対一の対応を決める問いではない。

底本：丸岡桂・松下大三郎共編 國文大観 9 日記草子部 板倉屋書房 明治36年。表記は教材用に一部整理。

語注・現代語訳・設問・解説は独自作成。

D 流れる水と人の暮らし

入試形式 D | 全8問 | 目安18分 | 25点 | 設問

本文と語注は問題10ページ。選択は記号を○で囲む。句読点も1字です。

問1〔2点〕③の「いはば」を現代仮名遣いに直し、ひらがなで書きなさい。

--	--	--

 3

問2〔2点〕①の「またかくの如し」の「かく」が示す状態として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 同じものが永遠に残る状態
- イ 生まれたり消えたりして同じままではない状態
- ウ 水の流れが完全に止まる状態
- エ 住まいがすべて同時に壊れる状態

問3〔2点〕②の都についての記述として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 外見も住む人も昔と同じである
- イ 外見は変わったが家はすべて同じである
- ウ 人が多く都は続いて見えるが、家や人は入れ替わっている
- エ 都はすでに人も家もなくなっている

問4〔3点〕②から、以前からある家が少ないことを述べる部分を抜き出ささい。（10字。かぎかっこは含めない。）

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

 10

問5〔3点〕③の「誰が為に心を悩まし」などの問いに表れる筆者の姿勢として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 家を造る具体的な手順を教えようとする
- イ 人と住まいが移り変わる中で、住まいに心を尽くす意味を問い直す
- ウ 誰が家を壊したか犯人を探そうとする
- エ すべての人に同じ大きさの家を与えようとする

D 流れる水と人の暮らし

入試形式 D | 全8問 | 目安18分 | 25点 | 設問のつづき

本文と語注は問題10ページ。

問6〔3点〕 ③の花と露について、本文が述べていることとして、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 露が先に消えても花が先にしぼんでも、残った方も長くは続かない

イ 花と露は同時に現れ、必ず同時に消える

ウ 露は毎回夕方まで残り続ける

工花さえ残れば露は二度と消えない

問7〔5点〕①の「行く川のながれは絶えずして、しかも本の水にあらず」を現代語訳しなさい。（50字以内）

[illegible]

問8〔5点〕 川・泡・花・露の描写を通して、筆者は人と住まいについて何を表そうとしていますか。どちらかが先に失われた後のことにも触れて説明しなさい。（40字以上70字以内）

[illegible]

得点 / 25点

解き直した日 月 日

解き直しメモ 間違えた問いの根拠を書こう。